

社会資本総合整備計画
「男衾駅周辺地区都市再生整備計画」
事後評価シート
男衾駅周辺地区

平成30年12月

埼玉県寄居町

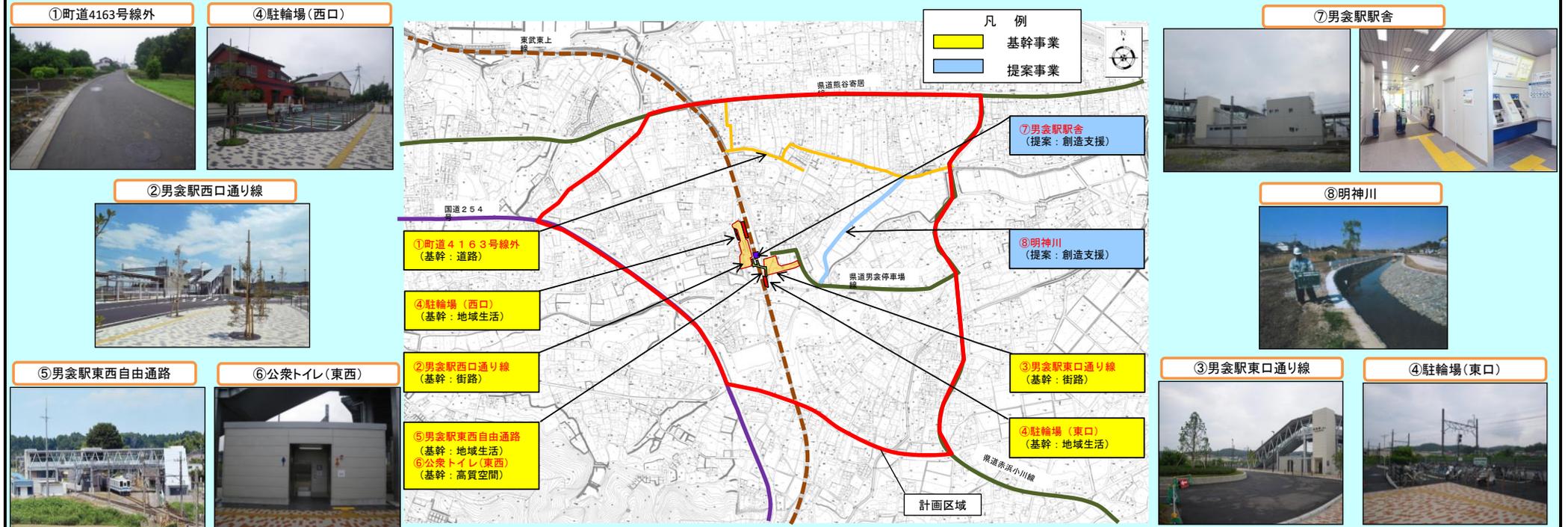
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	寄居町	地区名	男衾駅周辺地区		面積	90.7ha					
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	1,765.9百万円	国費率	40%						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業	●道路:町道4163号線外 ●地域生活基盤施設:駐輪場、男衾駅東西自由通路 ●高質空間形成施設:公衆トイレ(東西)											
	提案事業	●地域創造支援事業:男衾駅舎築造、明神川準用河川整備											
	当初計画から削除した事業		事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
	新たに追加した事業	基幹事業	●道路:都計道3・4・23男衾駅西口通り線、都計道3・4・22男衾駅東口通り線		都市計画決定の変更手続きが当初計画段階において完了していなかったため。		なし						
提案事業													
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし								
変更		平成25年度～平成28年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	地区内居住人口	人	1,986	H23	2,000	H28		1,824	△	ありなし ●	駅周辺では人口減少が下止まり、地区内の建築確認件数が増加した。	2021(H33)年度内
	指標2	踏切自動車交通量	台	331	H24	280	H28		361	△	ありなし ●	西口の送迎車両が増え、東口へ向かう送迎車両の踏切通行量が減少した。	2019(H31)年4月
	指標3	自由通路通行者数	人/日	0	H24	2,300	H28		1,503	×	ありなし ●	駅乗降客数が減少したことや、東西通過歩行者が見込みよりも大幅に少なかった。	2021(H33)年4月
	指標4										ありなし		
指標5										ありなし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
	その他の数値指標1	大雨による駅周辺道路の冠水確率	%	100	H24			0			大雨が降った時に河川の洪水が無くなった。	なし	
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 新設された自由通路では、単なる道路機能でなく掲示板等の利用により行政や地域の情報発信の場所として多くの利用がされていると共に、地域住民の東西通行が容易になったことでの新たな交流が期待できる。 男衾駅を起終点とするハイキングコースがあったが、西口の開設により新たなハイキングコースを設定することができ、ハイカーの好評を得ている。 駅前広場やアクセス道路の整備により道路照明が整備され、夜間でも安心して線路をはさんだ地域での往来が可能となり、また、地域の防犯意識も上がることが期待できる。 												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた										
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
住民参加プロセス	地元住民で組織される「男衾駅周辺地区まちづくり協議会」と連携し、明神川改修工事や駅前広場の植栽計画等地意見の反映を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた											
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				● 男衾駅周辺の街路整備事業や新規住宅地整備等、引き続き官民連携による取り組みを進めていく。							
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた											
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

男衾駅周辺地区(埼玉県寄居町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
豊かな自然環境と共生し、にぎわいのある都市拠点(地区生活拠点)を形成するとともに、快適な居住環境を有する住宅市街地を形成するために、駅利用者の利便性を向上、安心して暮らせる住環境の整備を目指す。	地区内居住人口	単位:人	1,986 H23	2,000 H28	1,824 H28
	踏切自動車交通量	単位:台	331 H24	280 H28	361 H30
	自由通路通行者数	単位:人/日	0 H24	2,300 H28	1,503 H30
	大雨による駅周辺道路の冠水確率	単位:%	100 H24		0 H30



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 自由通路及び西口通り線の整備が確実に進展したことで、東口への送迎車両等の交通集中が緩和され、駅利用者の安全性や利便性が向上している。 都市拠点となる駅、自由通路、周辺道路を整備した結果、数値目標には達しなかったが、計画区域内の建築確認数が増加し新たな住宅建設も散見され、駅周辺人口も下げ止まった。 駅周辺を流れる明神川の改修が完了し、大雨が降っても周辺道路が冠水することが無くなり、安心して暮らせる住環境の整備がされた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 明神川が整備され周辺道路の冠水がなくなったが、経年による土砂の堆積で河川のオーバーフローが生じる可能性もあることから、定期的な河川巡視等を実施し、適宜、しゅん濇を行う。 都市拠点となる駅へのアクセス道路(東口駅前広場・東口通り線)や駅周辺の生活道路となる町道の整備が遅れていることから、地権者との用地交渉を継続的にを行い、工事を着実に進めていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()	●		計画期間:平成25年度～平成29年度 目標年度:平成29年度	計画期間:平成25年度～平成28年度 目標年度:平成28年度	東西自由通路、駅舎及び公衆トイレの実施設計に基づき鉄道事業者と協議した結果、東西自由通路等の一体施工により工期短縮が可能となった。また、国の補正予算の活用により都市計画道路の用地を前倒して確保できたことから、駅周辺の整備完了と東西自由通路等の整備完了時期を合わせる事が可能となったため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道4163号線外	50	L=805m	67	L=805m	残土処分費の増額による事業費増	なし	●	
道路	都計道3・4・23男衾駅西口通り線			329	L=55m、A=2300㎡	都市計画決定の変更手続き完了に伴う事業の追加	なし	●	
道路	都計道3・4・22男衾駅東口通り線			295	L=65m、A=2500㎡	都市計画決定の変更手続き完了に伴う事業の追加	なし	●	
地域生活基盤施設	駐輪場	50	A=1,000㎡	50	A=553㎡	現地での測量の結果、面積が450㎡減少	なし	●	
地域生活基盤施設	男衾駅東西自由通路	1,000	L=106m、W=4.0m	861	L=106m、W=4.0m	概算事業費から実施設計により工事費を算出した結果による事業費の減少	なし	●	
高質空間形成施設	公衆トイレ(東西)	60	東西2箇所	60	東西2箇所	なし	—	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	—	—	モニタリング	—	あり	なし	
指標1	地区内居住人口	人	都市計画基礎調査(基準年平成27年)結果の中から当該計画区域のデータを抽出したものの評価値とする。	—	—	1,986	H23	2,000	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定 見込み	●	1,824	事後評価		
指標2	踏切自動車交通量	台	平成30年9月の平日でAM7:00~9:00、PM17:00~19:00に駅北側踏切の自動車通行量の実測値を評価値とする。	—	—	331	H24	280	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定 見込み	●	361	事後評価		
指標3	自由通路通行者数	人/日	平成30年9月の平日で、駅自由通路の歩行者通行者数を24時間実測したものを評価値とする。	—	—	0	H24	2,300	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定 見込み	●	1,503	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	予想以上に人口減少が進み、従前値の現状維持の目標は達成できなかった。しかし、地区内の建築確認数は増加しており、また、駅周辺の地区での計画開始年から事後評価時点の人口変移を見ると、町全体の人口は減少の一途をたどっているが、駅周辺では横ばいとなっており、限られて地区ではあるが人口減少に歯止めをかけられたことは評価できる。なお、今後駅周辺で計画されている住宅市街地整備事業の進捗などにより、今後の人口増加に期待できるものがある。	指標となる区域である用途地域内人口は、5年に一度の都市計画調査で人口を把握しているため、本計画でも従前値が平成22年度調査時点で計画開始よりも3年前であることから計画開始時点で、ある程度の人口減少が進んでいたと町全体の人口からも推測ができる。また、事後評価時点の数値も平成27年度調査時点の計画途中であることから、確定値として適切な指標値であるか判断に戸惑うものがあった。
指標2	踏み切り通り抜け車両が増加し、従前値の約15%減少させる目標は達成できなかった。しかし、西口利用者の送迎車両の駅前広場自動車通行量を踏み切り通行量と同じ計測手法で調査したところ、49台の通行が確認できた。この台数は、従前値の15%減少した数値であり、踏切通行量の減少に一定の効果が在ったことは認められ評価できる。	基準年度と比較して事後評価時では周辺道路状況(企業立地、インフラ整備工事等)の変化などが生じ、抜け道や通勤経路として利用される傾向があり、局所的な通行量のみを計測することで判断することが難しく、急遽、男衾駅西口の送迎車両の通行量調査を補完的に実施した。
指標3	目標年次における男衾駅の乗降客数は、基準年度の89%程度まで減少し、事後評価時では84%程度まで落ち込んでいる状況であり、また、自由通路の東西通過歩行者も駅利用者の2%弱で、計画の15%を大きく下回ったことから、自由通路歩行者数の目標達成はできなかった。なお、今後駅周辺で計画されている住宅市街地整備事業等の進捗などにより、今後の人口増加が進むことで自由通路通行者数の増加に期待できるものがある。	周辺地域の人口減少による鉄道利用者の減少と相まって、移動手段が鉄道から自動車に移り変わっていく中で駅利用者が減少し、自由通路通行者数に大きく影響を受けてしまった。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度					
その他の数値指標1	大雨による駅周辺道路の冠水確率	%	—	—	100	H24	モニタリング	—	—	0	明神川の改修結果、大雨時の道路冠水が明らかに減り、安心して暮らせる住環境の整備効果を表す指標としてふさわしいため。
							事後評価	確定	●		
その他の数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定			
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・新設された自由通路では、単なる通路機能でなく掲示板等の利用により行政や地域の情報発信の場所として多くの利用がされていると共に、地域住民の東西通行が容易になったことでの新たな交流が期待できる。
- ・男衾駅を起終点とするハイキングコースがあったが、西口の開設により新たなハイキングコースを設定することができ、ハイカーの好評を得ている。
- ・駅前広場やアクセス道路の整備により道路照明が整備され、夜間でも安心して線路をはさんだ地域での往来が可能となり、また、地域の防犯意識も上がることが期待できる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
男衾駅周辺地区まちづくり協議会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計9回 【実施時期】平成24～29年度 ●【実施結果】地元住民で組織される組織の意見を聞きながら事業計画や基本的な設計内容について合意形成を図ったことにより、周辺地域のまちづくりとの整合性を図ることができた。	引き続き本協議会との連携を図りながら、町と行政との協働によりまちづくりを進める。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価検討会	関係各課主幹・主査級職員(建設課、都市計画課)	第1回 平成30年10月23日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標		指標		指標		指標	
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	町道4163号線外								
	都計道3・4・23男衾駅西口通り線								
	都計道3・4・22男衾駅東口通り線								
	駐輪場								
	男衾駅東西自由通路								
提案事業	公衆トイレ(東西)								
	男衾駅舎築造								
関連事業	明神川準用河川整備								

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3					
指標名		地区内居住人口			踏切自動車交通量			自由通路通行者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	町道4163号線外	△	主に駅周辺での住宅市街地整備事業の停滞や一部道路の整備が遅れていることが考えられる。ただし、地区内の建築確認件数は増加しており、また、町全体の人口は減少している中で駅周辺は横ばいで推移していて、人口減少に歯止めをかけられていることは評価できる。	II	—	踏切周辺の道路事情の変化による通り抜け車両の増加が要因として推測される。ただし、西口駅広の自動車交通量は、従前値の15%減少した数値であり、踏切通行量の減少に一定の効果があったことは認められ評価できる。	III	—	駅旅客乗降客数が減少したことや、東西通過歩行者が見込みよりも大幅に少なかったことが未達成の要因であるが、本施設の開通により利便性が向上したことや、歩行者が安全に往来できるようになったことは評価できる。	II	—		
	都計道3・4・23男衾駅西口通り線	△			△			△					
	都計道3・4・22男衾駅東口通り線	△			—			—					
	駐輪場	△			—			△					
	男衾駅東西自由通路	△			△			×					
	公衆トイレ(東西)	△			—			△					
提案事業	男衾駅舎築造	△			△			△					
	明神川準用河川整備	△			—			—					
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	男衾地区住宅市街地整備の早期実現を関係機関との連携・調整により進めると共に、進捗の遅れている道路の整備を継続的に行う。	従来、駅東口へ向かうために踏み切りを通過していた自動車は、西口通り線の開通に伴い従前地の15%減少した台数が西口通り線を利用している。このことから、今後とも西口通り線の利用が促進されるようPRしていく。	周辺地区の居住人口増加施策と共に、自由通路の東西通過の利便性や安全性を住民の方々や関係機関にPRしていく。
------------------	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価検討会	関係各課主幹・主査級職員（建設課、都市計画課）	第1回 平成30年10月23日	都市計画課（都市再生整備計画事業担当課）

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
東口への交通の集中化を解消	東西自由通路により西口を新設し、西口へのアクセス道路を整備する事業が完了し、東口への交通集中が解消された。特に雨天時における交通集中が解消されている。	なし	なし
田園風景を活用した緑豊かな住環境整備	都市拠点となる駅、自由通路を整備し、田園風景の残る周辺道路の整備を行った結果、整備した沿線沿いで新たな住宅建設が見受けられた。	男衾駅東口駅前広場、東口通り線及び町道4163号線外の早期開通	
都市生活を確保する治水対策の強化	駅周辺を流れる明神川の改修を行い、大雨（短時間での大雨を含む。）が降っても周辺道路などが冠水することが無くなり、安心して暮らせる住環境の整備が行われた。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	周辺道路を冠水率の低減	・明神川の流水断面を常に確保する。	・河川内に堆積した土砂等のしゅん濇

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	男衾駅東口駅前広場、東口通り線及び町道4163号線外の早期開通	早期開通に向けて事業を継続する。	・土地所有者との用地交渉及び工事の実施
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

全ての事業が完了した際には、この事後評価の内容に沿った評価をしてほしい。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区内居住人口	人	1,986	H23	2,000	H28	確定	●	1,824	△	あり	●	2021(H33)年度内	2020(H32)年10月を基準とする都市計画基礎調査の結果を用いて達成状況を確認する。	都市計画基礎調査結果が公表され次第実施
指標2	踏切自動車交通量	台	331	H24	280	H28	確定	●	361	△	あり	●	2019(H31)年4月	踏切自動車交通量を実測し、達成状況を確認する。	駅周辺における道路工事の規制が無い時期に実施
指標3	自由通路通行者数	人/日	0	H24	2,300	H28	確定	●	1,503	×	あり	●	2021(H33)4月	自由通路歩行者数を実測し、達成状況を確認する。	
指標4							確定				あり				
指標5							確定				あり				
その他の数値指標1	大雨による駅周辺道路の冠水確率	%	100	H24			確定	●	0						
その他の数値指標2							確定								
その他の数値指標3							確定								



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	特になし	モニタリングが容易にできるように、毎年データが算出できる指標を選定する。
	うまくいかなかった点	モニタリングを実施しなかったため、計画途中での数値目標と評価値の差異が大きくなってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	事業効果の適切な判断ができるように、事業実施箇所に直接的に関係する部分での計測をすることが必要である。
	うまくいかなかった点	指標2は東口の交通集中の解消に係る指標であったが、直接東口の交通量を計測していないので、事業の直接的効果を計測することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	計画段階から住民に情報を提供し、また意見を聴取しながら工事を進めることで、住民意見を反映した整備を行うことができた。	工事での基本設計や詳細設計に住民意見を多く取り込めるように、早めの情報提供を行い、また工事期間中も進捗状況などの広報を行い、住民と一体になった工事を進められるようにする。
	うまくいかなかった点	工事実施段階での住民への情報提供が少なくなってしまった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	適切な指標を選定し、計画期間中に適宜指標を把握しながら計測し、計画の実効性が向上できるようにする。
	うまくいかなかった点	指標1は5年に1度公表される数値のため、期間中の数値を確認することができなかった、また、指標3も新設される施設のため期間中の確認をすることができなかった。	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
なし

・今後、事後評価を予定する地区

平成35年度に寄居駅周辺地区において、事後評価の実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成30年11月5日～11月19日	平成30年11月5日～11月19日	担当課への郵便、電話、電子メール、FAX等	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ	地元協議会への説明会実施	平成30年11月14日	平成30年11月14日～11月19日		
その他	都市計画課窓口において供覧	平成30年11月5日～11月19日	平成30年11月5日～11月19日		

住民の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・西口ができて便利になった。 ・雨の日は東口が狭いから事故が起きないか心配。早く東口の道路ができてほしい。 ・明神川の整備が進んで、今年は道路が湖にならなくて良かった。
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	都市計画審議会 会長 埼玉大学大学院 教授 商工会 副会長	第1回 平成30年11月20日	都市計画課(都市計画担当)	既存機関を活用(都市計画審議会)	既存組織(都市計画審議会)
その他の委員	町議会議員 3名 北部地域振興センター 所長 熊谷県土整備事務所 所長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・目標達成度で〇がなく一つも達成できていないが、指標の設定が悪かったのではないかと意見があったが、今後の計画ではこの教訓を生かした指標を設定していく説明をして理解を得た。
	実施過程の評価	・町と地元での協同による事業推進が図られたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・駅周辺の住宅整備事業が遅れていることが、効果発現要因の一因ともなっているのではないかと意見があった。早くこの事業効果を出すためにも、一日も早い住宅整備事業(区画整理)を実施してほしいとの意見があった。 →住宅整備事業の進捗状況を説明し、理解を得た。
	事後評価原案の公表の妥当性	町民へ広く周知し、特に地元に対する説明会の実施など、きめ細やかな公表手続きが実施されたことが確認された。
	その他	・指標の設定の経緯はどのように設定されたのかとの意見があった。 →指標を設定した際の経緯や計画の課題との関連性を説明し理解を得た。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・東口通り線の早期開通を期待する意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップでまた同じように公表することは、いいことであるとの意見があった。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--